

この世にあって、 キリストに従う

— 内村鑑三の
信仰からの励まし—

1

北島智宏
2025.08.17



動乱の時代を生きた信仰者

- 内村鑑三(1861-1930)の略歴と時代背景
- 「神の前に正しく生きる」姿勢
- 父・宜之の倫理観：
「誠を尽くせ」、「恥を知れ」



子祐之 父宜之 鑑三

札幌農学校と信仰の出発点

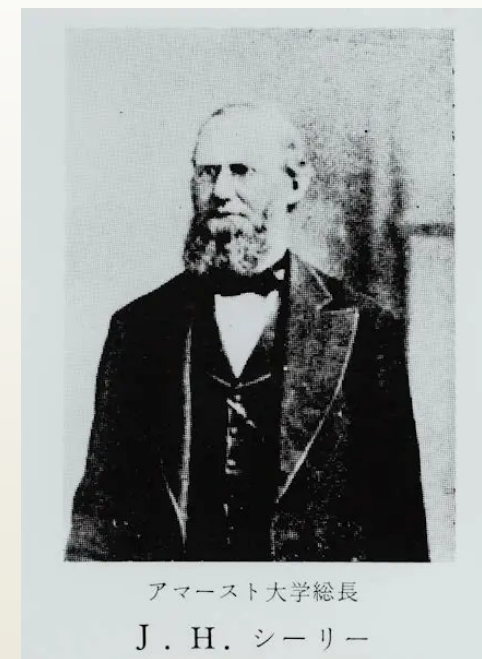
- クラーク博士の精神的遺産
「キリストに従え」
- 札幌バンドとの出会い、
洗礼の経験
- 「人生最大の幸福は
キリストを信じたこと」



1879(明治12)年の札幌農学校

アメリカ留学とシーリー先生の言葉

- アマースト大学での学び
- 信仰の揺らぎと霊的成長
- 名言:「君の信仰は鉢の木を引き抜くようなもの」



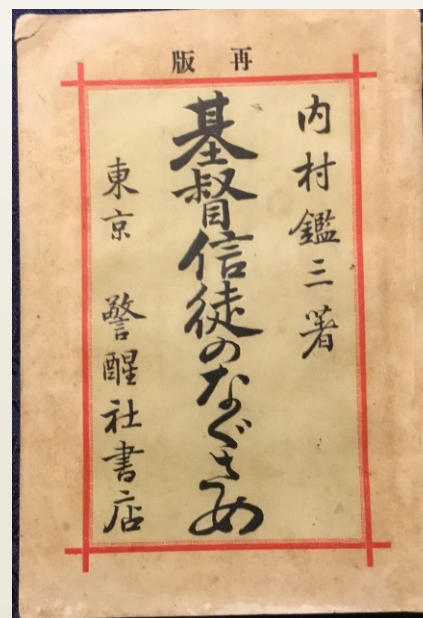
不敬事件と『基督信徒のなぐさめ』

▶ 不敬事件(1891年)

教育勅語の天皇の宸書の前で敬礼を拒否

▶ 『基督信徒のなぐさめ』(1892年)

愛するものゝ失せし時
 国人に捨てられし時
 基督教会に捨てられし時
 事業に失敗せし時
 貧に迫りし時
 不治の病に罹りし時



1891年 内村鑑三不敬事件



内村鑑三

・ 教育勅語に記された天皇の宸書の前で敬礼を拒否

キリスト信徒のなぐさめ

内村鑑三著



「不敬事件」により苦悶な精神を受けた内村鑑三(1861-1930)は、さらに重病、失業、愛妻の死、難病、信仰共同体からの疎隔という幾重もの苦悶に襲われる。そうした逆境からの自己の再生を機に本書は万人に「なぐさめ」のありかたを示す。発行後30年を記念した特別版(1923年)を底本とする決定版。〔注・解説・邦本紹介〕



青119
岩波文庫

「私には神がいる」という信仰

➡「人に従うより、神に従う」(使徒5:29)

➡「私には神がいる」
という答え

➡苦難の中でも信仰を
捨てなかった生きざま



内村鑑三と加寿子

内村の三つの献身(1)神への献身

- 「神の御顔を仰ぎ見て
生きる」信仰
- 毎日の祈り・聖書・礼拝
- 神の前に正しくありたい



「畏神不恐人」
お茶の水クリスチャンセンター

内村の三つの献身(2)教会への献身

- ➡ 無教会主義の真意
- ➡ 自由で誠実な霊的共同体
- ➡ 「無教会集会」の形成



新旧の今井館
(旧)新宿区角筈
(新)文京区駒込



内村の三つの献身(3)社会への献身

- 公の場で信仰を語る
- 非戦の立場と
「JesusとJapan」

To be Inscribed upon
my Tomb.

I for Japan;
Japan for the World;
The World for Christ;
And All for God.



I for Japan;
Japan for the World;
The World for Christ;
And All for God.

←内村は愛用の聖書に書き込んだ(アメリカ留学時代)

私は日本のために
日本は世界のために
世界はキリストのために
すべては神のために

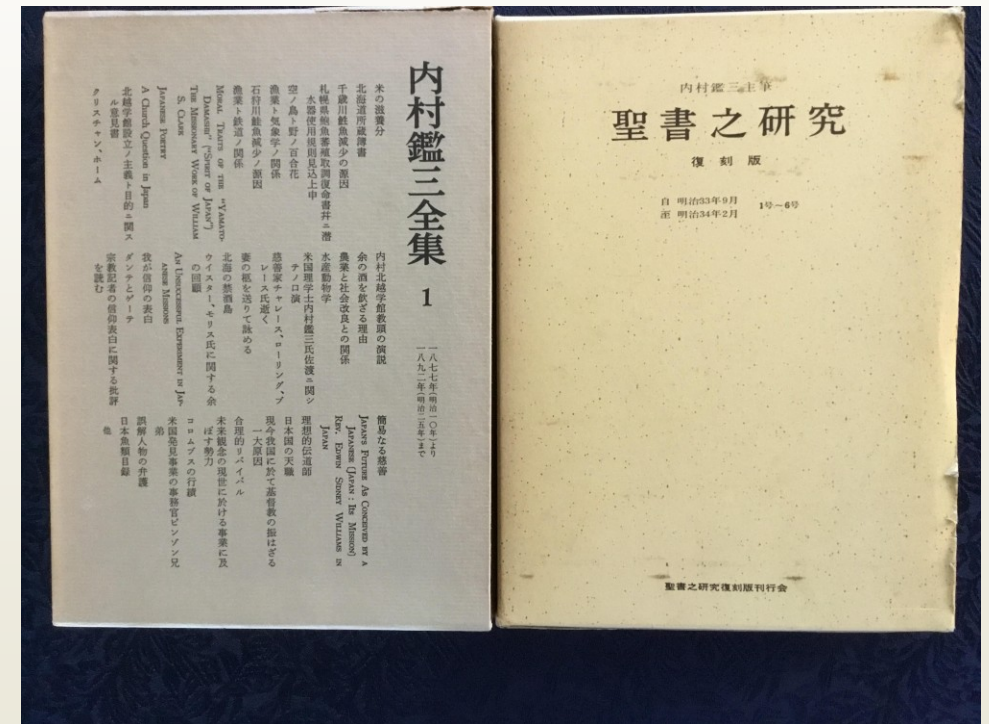
結びに ― 世に勝つ信仰

➡「世に勝つ者とは…」(Iヨハネ5:5)

➡表面的でない強さと平安

➡私たちの信仰への問い

➡神に根を張る生き方



『内村鑑三全集』(岩波書店)と
『聖書之研究』(復刻版)